

十種神宝の祝詞

とくさのかんだから のりと

祈りの前に静かに呼吸を整え、
一語一語を丁寧に奏上しましょう。

布瑠の言（ふるのこと）

十種神宝の霊力を振り起こす詞として伝えられる、短い祈りの言葉です。

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十
ひと ふた みよ いく むゆ なな や この たり

布瑠部 由良由良止 布瑠部
ふるべ ゆらゆらと ふるべ

十種神宝祓詞（とくさのかんだからのほらえことば）

高天原（たかまのはら）に神留（かむづま）り坐（ま）す、皇吾親神漏岐（すめらがむつかむろき）・神漏美命（かむろみのみこと）以（も）ちて、皇神等（すめがみたち）の鑄頭（いあら）わし給（たま）う十種（とくさ）の瑞宝（みずのたから）を、饒速日命（にぎはやひのみこと）に授（さず）け給（たま）い、

天津御親神（あまつみおやのかみ）は言誨（ことをし）え詔（の）り給（たま）わく、汝命（いましみこと）、この瑞宝（みずのたから）を以（も）ちて、豊葦原（とよあしはら）の中国（なかつくに）に天降（あまくだ）り坐（ま）して、御倉棚（みくらたな

）に鎮（しず）め置（お）きて、蒼生（あおひとぐさ）の病疾（やまい）の事有（ことあ）らば、この十種（とくさ）の瑞宝（みずのたから）を以（も）ちて、

一（ひと）・二（ふた）・三（み）・四（よ）・五（いつ）・六（むゆ）・七（なな）・八（や）・九（ここの）・十（たり）と唱（とな）えつつ、布瑠部（ふるべ）、由良由良止（ゆらゆらと）布瑠部（ふるべ）。此（か）く為（な）しては、死人（まかりしひと）も生（い）き反（かえ）らんと、言誨（ことをし）え給（たま）いし随（まにま）に、

饒速日命（にぎはやひのみこと）は天磐船（あめのいわふね）に乗（の）りて、河内国（かわちのくに）の河上（かわかみ）の哮峰（いかるがみね）に天降（あまくだ）り坐（ま）し給（たま）いしを、爾後（そののち）、大和国山辺郡（やまとのくにやまべのこおり）の布瑠（ふる）の高庭（たかにわ）なる石上神宮（いそのかみのかみのみや）に遷（うつ）し鎮（しず）め、斎（いつ）き奉（まつ）り、

代代（よよ）、其（そ）が瑞宝（みずのたから）の御教言（みおしえごと）を、蒼生（あおひとぐさ）の為（ため）に、布瑠部（ふるべ）の神辞（かむごと）と仕（つか）え奉（まつ）れり。

故（かれ）、此（この）瑞宝（みずのたから）とは、瀛都鏡（おきつかがみ）・辺都鏡（へつかがみ）・八握剣（やつかのつるぎ）・生玉（いくたま）・足玉（たるたま）・死反玉（まかるかえしのたま）・道反玉（ちがえしのたま）・蛇比礼（へみのひれ）・蜂比礼（はちひれ）・品物比礼（くさぐさのもののひれ）の十種（とくさ）を、布瑠御魂神（ふるのみたまのかみ）と尊（とうと）み敬（いやま）い、斎（いつ）き奉（まつ）る事（こと）の由縁（よし）を、

平（たいら）けく安（やす）らけく聞（き）こし食（め）して、蒼生（あおひとぐさ）の上（うえ）に罹（か）かれる災害（わざわい）、また諸諸（もろもろ）の疾病（やまい）をも、布瑠比除（ふるいの）け、祓（はら）い遣（や）り給（たま）い、寿命（よわい）長（なが）く、五十櫃八桑枝（いかしやぐわえ）の如（ごと）く立栄（たちさか）えしめ、常盤（ときわ）に堅盤（かきわ）に守（まも）り幸（さきわ）え給（たま）えと、恐（かしこ）み恐（かしこ）みも白（まを）す。

奏上するときの目安

一	姿勢を整え、ゆっくりと呼吸します。
二	全文、または短い「布瑠の言」を丁寧に唱えます。
三	唱え終えたら、静かに一礼します。

注：祝詞の漢字・仮名・読み方には、伝承や奉唱する流派によって異同があります。本書では一般に紹介される表記の一例を採用しています。病気や心身の不調がある場合、祝詞は医療行為の代わりにはなりません。必要に応じて医療機関へご相談ください。

参考：『先代旧事本紀』に伝わる十種瑞宝と布瑠の言／奈良県『物部神社鎮魂祭・大元神楽に見る呪術的古層』